

パネルディスカッション
「今あるべき地域公共交通を考える」
茨城県日立市の取組について



平成25年10月28日
日立市都市建設部公共交通政策課

2つの取組み

- 住民の乗車促進運動による山側住宅団地の路線バス維持確保
- 住民による山間地域での乗合タクシー運営

キーワード 住民が主体

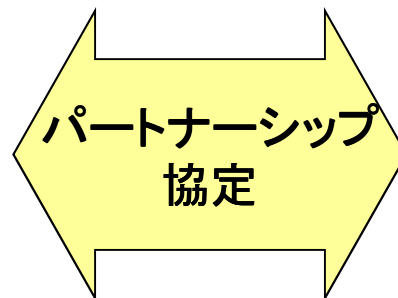
パートナーシップ協定



地域住民とバス事業者が
路線バスの活性化について話し合い(延べ22回)



地域住民が望む団地内フリー乗降や
最終便の増便を実施



ノーマイカー運動を行なうなど、バスの
乗車促進を地域ぐるみで実施

山間地域で自治会ごとの懇談会

➤ 15～30世帯の自治会ごとに懇談会を実施
(内容)

地域でNPOを設立して乗合タクシーを運営
NPOの会費を、全世帯から徴収(約2000円/年)



過疎地有償運送をNPOが運行

- NPOが過疎地有償運行（デマンド方式）
- 運賃300円/1外出（回数券制度あり）
- 8人乗りワゴン車2台（中古車リース）

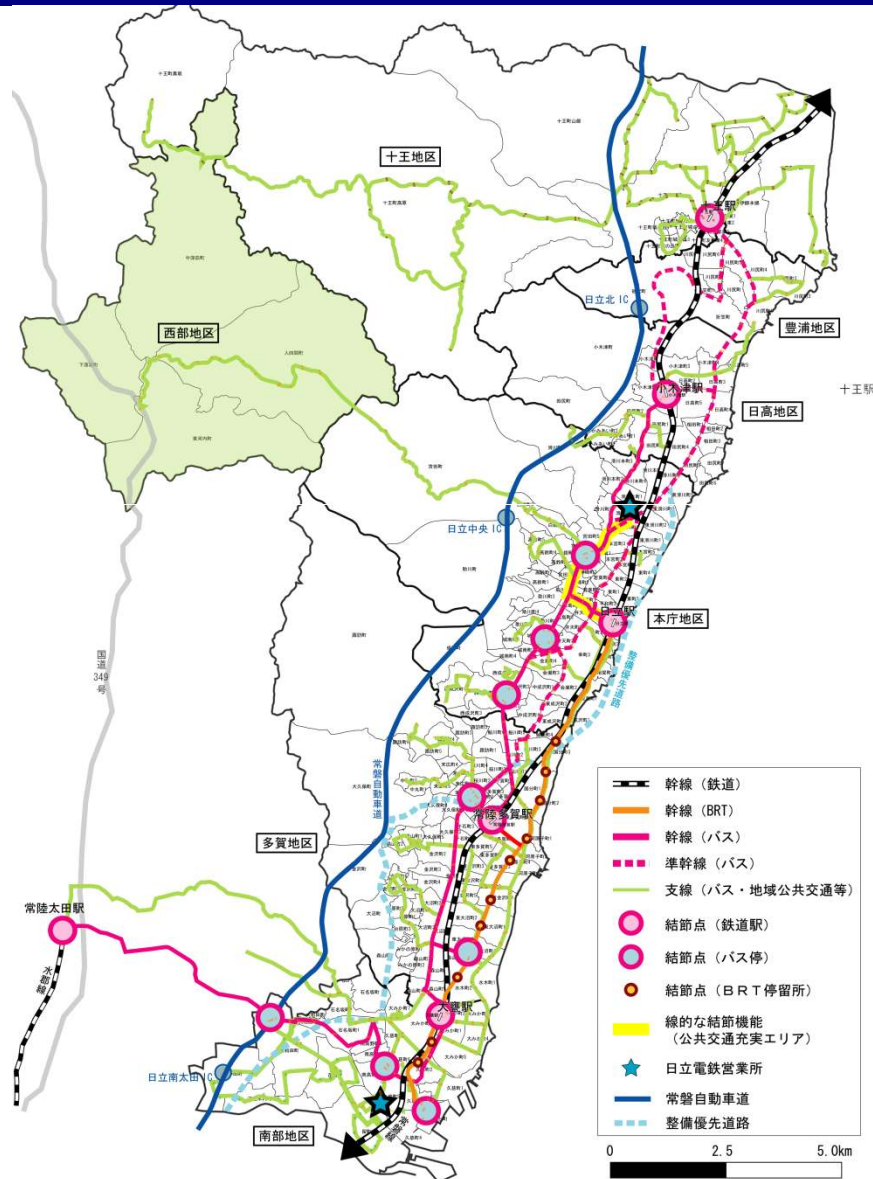


デマンド予約は地元住民による手作り地図（アナログ）



中古車リース1日500円と600円

ネットワークの再構築



■ 幹線の設定(条件)

- ①利用状況(朝夕だけでなく、日中も多い)
- ②路線形態(JR駅や地区間のネットワーク)
- ③移動発生量(人口、施設、企業の集積)

■ 支線の設定(分類)

- ①路線バス(パターン1)
交通事業者が自ら運行する路線
- ②路線バス(パターン2)
交通事業者がパートナーシップ事業により運行を確保する路線
- ③地域バス
地域負担と市補助で運行するバス路線
- ④地域公共交通
地域住民の主体、負担を前提に運行する路線

廃線になった鉄道跡地をBRTに

1 運行区間（3月25日から運行）

- 日立おがさなセンター⇄JR大甕駅

2 運行ルート

- 路線延長 約3.2km（うち、専用道路約1.3km）

3 運行ダイヤ（所要時間10分）

- 平日 5:50~22:45 36往復
- 土日祝日 6:35~20:50 24往復

4 運賃

- 180~200円
- 学生通学割引定期（1,000円/月）発行

